

青山

AOYAMA

梅窓院通信

No.28 2006/09/01 秋彼岸号

郡上八幡、青山様のお城

梅窓院を開いた青山家は明治維新をこの郡上八幡城で迎えました。昭和八年に立て直された山城は威風堂々と郡上の町並みを見下ろしています。



梅窓院の開基、青山家由緒の地、岐阜県郡上八幡城の前で、右から 氏、中島住職、郡上八幡観光協会会長。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

秋彼岸を迎える頃となりました。皆さんお元気でいらっしゃいますでしょうか。

この夏、八月初旬に郡上八幡へ行ってきました。梅窓院開基の青山家が明治維新を迎えた地です。

さて、この郡上八幡、一昨年九月の町村合併で七つの町や村が一緒になり、郡上市となりました。人口およそ五万人、岐阜県の十分の一を占める広大な山間の市となったのです。もちろん合併しても清流や山々に変わりはなく、きれいな水とおどりは名物のままで、その郡上おどりの取材が今回の目的でした。

はやいもので梅窓院の境内で郡上おどりが始まってから十三年、いまだは多くの方で賑わい、郡上八幡からも毎年多くの方が来てくれます。こうしたことから、観光協会の会長さんや新市長さんに、郡上おどりについて伺い、特集を組もうという取材旅行だったのです。

ですが、驚いたことに偶然にも殿様（今でも郡上の人は青山家をこう呼んでいます）も同じ日に郡上八幡を訪れられていたのです。青山家の皆さんが先祖の足跡を旅される途中、郡上八幡に立ち寄られたのと重なった訳ですが、まさに奇遇。それでは、と観光協会の会長様にもご足労いただき、三人でお城の前でとった写真を表紙にさせていただきます。郡上おどりの魅力は中面の特集をお読み下さい。

死

ある死からの年月
— 生き続ける正語 —

長野市十念寺 副住職

袖山 榮輝 上人

実家の妹夫婦が結婚八年目にて自宅マンションを購入、七月初旬、新居に移り住んだ。夫の通勤の便と実家から余り遠くないことを条件に、居住地を埼玉から地下鉄日比谷線沿線の東京下町に定めたのである。

ところでこの転居、妹夫妻はさておき私自身にとつては、じつに因縁めいている。というのも最寄り駅からマンションへと続く通りの入り口に丁寺があるからだ。

丁寺は、私の幼なじみKが眠る寺。これまで墓参りの機会もなかったが、きつといつか縁があるに違いないと思っていたのである。

Kとは幼稚園から小学校の八年間、すべて同じクラス。いつも一緒だった。

ズバ抜けて大きい体。要領がよさそうでいて妙にズレているセンス、そこが憎めない。中学でこそ別々のクラスになったが、お

互い気心知れた同士、いつでも励まし合う仲だった。

そんな二人が別々の高校に進んだ後、Kは一足飛びに背伸びした。年上の彼女ができ、子どもを授かり、同級生たちより一足早く家庭を持ったのだ。

ただ、その幸せを維持するには大きな重荷があったのだろうか。家庭がうまくいかなくなり、新しい人とやり直すと言ったのはKのお母さまからだったように思う。

その頃、大学生となっていた私はKよりも、むしろKのお母さまと行き会おう方が多かった。

大学卒業の年の冬、私も結婚を控えていた。卒業と同時に長野の今の寺に婿養子に入るのである。

その話もやはりKのお母さまを通じてKに伝わった。ただし「人数の関係もあるから結婚式には招待できない」旨を付け加えざるを得なかった。

後日、再びKのお母さまに

お会いした。「オレだって、そのくらい心得ていたよ。ただ、オレ、テルのこと好きだから、何かお祝いしたいって息子が言っていたのよ」とKの言葉を伝えて下さった。

「テル」とは私のこと。その心遣いがうれしかった。だが、私にとつてそれがKの最後の言葉となった。

Kが死んだのは、それから間もなくだった。再出発を期して出かけた旅行先での不慮の事故だった。

あれから二十年。Kの戒名なら毎朝唱えている。忘れるものか。Kの最後の言葉を思い出すと、未だに涙が出る。

仏道修行の一つに「正語しょうご」がある。嘘や二枚舌、心にもないお世辞や悪口を言わないことであるという。表裏なく、しかも人を思いやる言葉使いを心がけるといふことだろうか。

Kの最後の言葉は正語であったのか。少なくとも、二十年経った今も、確実に私を励まし続けている。

Kよ。これから先、妹宅を訪れる度に丁寺に立ち寄ろう。君のお墓に手を合わせながら、私も君に正語を語りかけよう。

Kよ。あれから二十年。君は極楽に行ったけど、僕らはずっと親友であり続けた。そして、これからもそう思い続けていいの、かい、と。

(浄土宗総合研究所研究員)

施餓鬼会大法要

7月21日 本堂・祖師堂



施餓鬼会大法要の様子。お足元の悪い中、多くの方々にお越し頂きました。

六・七月の

行事報告



お齋の様子。作法を教わった後、皆さんで頂きました。

盂蘭盆会法要

7月13日 梅窓院本堂



お参りの方々にたくさんお集まり頂きました。

ご家族そろって
お参り致しませう

秋彼岸法要

九月二十三日（土）

彼岸寄席

午後一時～ 一階観音堂

秋彼岸会法要

午後二時～ 二階本堂

秋彼岸に寄せて

お彼岸って何するの？

お彼岸は、先祖供養すると共に、自分自身が煩惱多き此岸から彼岸に思いを寄せる良い機会です。日ごろお忙しい方々も、春・秋の年二回のお彼岸にはご家族揃ってお参りし、先祖の供養と精進を心がけたいものです。

●お墓では：：特別の作法は必要ありません。墓石やお墓の周りを綺麗に掃除し、お花やお線香、故人の好きだった物などをお供えします。そして墓石の上からたつぷりと水をかけます。これもお布施の一つなのです。

●お寺では：「彼岸会」の法要が営まれます。梅窓院でも寄席や法話などが行われますので、お参りの際には彼岸会にも参加して、ご供養をお願いしましょう。ご本尊へのお参りはかかさないようにしましょう。

●家庭では：：仏壇を綺麗にし、お花・おはぎなどをお供えします。

彼岸花

彼岸花の名前はちょうど秋のお彼岸の頃に花が咲くことに由来します。別名を曼珠沙華^{まんじゆしけ}と言い、天上の花という意味があります。おめでたい事が起こる兆しに、赤い花が天からふってくるという仏教の経典によります。彼岸花は曼珠沙華という別名以外にも、各地域によっていろいろな異名があり、千種類程あると言われています。自分の住んでいる土地や、親戚や友人の住んでいる土地で何と呼ばれているのかを調べてみるのも面白いかもしれませんね。

●お檀家様へお願い

●お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。

●九月二十日から二十六日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせて頂きます。ご協力お願いします。

塔婆お申込み方法

同封のがきを使い9月12日必着でお申込み下さい。塔婆回向料は1本7千円とさせて頂きます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。（銀行でのお振込みは出来ません。）

郡上 おどり

日本三大民踊・
国重要無形民俗文化財

日本三大民踊のひとつ、郡上八幡おどり。

その特徴は何といつても誰でも踊れる、

覚え易い踊りということ。

十種類ある曲は踊るもよし、

また聞いても楽しい郡上ならではの伝統芸能だ。

国重要無形民俗文化財の指定も受けているこの郡上おどり。

郡上八幡最後の藩主であった青山家の菩提寺ということから、

毎年六月にはここ梅窓院の境内でも行われているが、

その魅力を求め、本場郡上を訪ねてみた。(編集部)



この日は頭上にライトアップされた城が浮かびあがる城山公園が会場となった。
「山内一豊夫人の夕べ」と題されたこともあり、公園の山内一豊とその妻千代の銅像もこころなしか笑って見えた。
やかたの左横にその山内一豊の像が見える。



毎年6月の最終の土日に梅窓院の境内で、郡上おどり in 青山が行われ、郡上八幡から保存会や踊り手さんもやってこられる。また郡上八幡の名産品展も開かれるが、名物鮎の塩焼きは大人気。

四日間の徹夜おどりは 「雨も降らぬに袖しぼる」

「夜中の二時を過ぎるとようやく上手い踊り手が残って、下駄の音もきれいにそろってくる。午前四時になり、空が白んでくる頃に最後の曲、『まつさか』となり歓声が上がります。夜八時から始まった郡上おどりがようやく終わります。そしてこれが四日間続き、この間だけで二十万人の観光客が来るのです」

郡上おどりは七月から九月までの三十二夜、毎夜場所を変え踊られるが、何と言っても八月十三日から十六日までのお盆の徹夜踊りが大いに盛り上がる。年間三十万人前後の観光客の六〇七割がこの四日間に集中し、全国から盆踊りファン、観光客が訪れ、われもわれもと朝まで踊り続ける。メイン会場はもちろん、通りや路地にも踊り手があふれかえる。この人気の秘密は何なのだろうか？

そう、それは郡上おどりの踊りやすさにあった。「かわよき」、「三百」、「春駒」といった踊りは見よう見真似で踊っているうちに、その曲が続く十分ぐらいの間になんとなく体が覚え、最後のほうではもう自然と体が動いている。上手い人も下手な人もいるから、まわりの目も気にならない。だから、子どもでもお年寄りでも外国の方でも簡単に輪の中に入っていける。見に来ただけ、という人もいつの間にか踊りの輪に加わっている。

しかも、審査する曲目は日によって変わるが、郡上おどり保存会が踊り手の中からその曲を上手く踊っている踊り手に声を掛け、免許が進呈される。これがまた立派な免許で、ちよつと欲しくなる。郡上八幡観光協会会長の「郡上おどりは参加することに意義がある」にはなるほど説得力がある。

七つの町村合併で五万人の郡上市誕生

岐阜県の南西の山間の七町村が合併して、一昨年に郡上市が誕生した。村長さん町長さん七人がいたところをたった一人の市長がまとめることになったのだから大変な役割である。

「それは簡単なことではありませんが、以前からこの七つの町村で合同会議を開いていましたし、対等合併の選挙で市長を選出しましたから、と郡上市初代市長となった市長。市長は郡上市の北、高鷲町の出身で、高鷲町はウインタースポーツのメッカ。合併までは郡上おどりはいわば隣の名物だったのが、突然その郡上おどりの主催市の長になったことについて聞いてみた。

「いやー、私は踊らないんですが、ちゃんと挨拶には馳せ参じてますので、それで許してもらっています(笑)。」

でも、郡上の全国区の名物はやっぱり郡上おどりで「岐阜県の十分の一を占める大きな市となったいま、公務多忙で踊る暇がないのが実際のところのようだ。」

さらに郡上おどりに加え、高鷲町に隣接している白鳥町にも白鳥おどりという盆踊りがある。新市長にとってもこうした盆踊りの観光政策は市政の要のひとつのようだ。

郡上市新市長となった市長。市政の基本は市民の安全という新市長への期待は大きい。



郡上市新市長となった市長。市政の基本は市民の安全という新市長への期待は大きい。



郡上おどり保存会に踊りが上手いと認定されると、この免許状が無料でいただける。梅窓院の郡上おどりで認定が行われている。写真の免許状は中島住職がもらったもの。

郡上おどり



八幡町の中心を流れる吉田川。写真は名物のジャンプコンテストが行われる新橋。おどりのまち、みずのまちの郡上八幡には自然が溢れている。

郡上の殿様 青山家と郡上おどり

梅窓院を開いた青山家は徳川家の重鎮として仕え、岡崎から岩槻、掛川、尼崎、宮津などを経て、最後はこの郡上八幡に落ち着いている。

青山家が入る前の藩主金森家が郡上一揆で取り潰しとなった後だけに、幕府の信頼のあつかった青山家が、ここ郡上に任せられた。

ちよつと驚くが、いまでも郡上の人は青山家を殿様と呼んでいる。

実はこれも郡上おどりの影響といえるかもしれない。「三百」という曲は、一揆で疲れきった藩内を見て、青山の殿



現在放映中のNHK大河ドラマ「功名が辻」の山内一豊の妻、千代は郡上八幡生まれという説が有力。奥には城が見えている。

様が身分の上下なく三百文ずつ与えたことを唄ったもの。また「やっちく」という曲の歌詞に青山様の名前も出てくる。

いったい歌詞に名前が出てくる気持ちはどんなものだろう。青山家十一代が祖父、十四代が息子さんという青山家の家長、さんに訊いてみた。

「私は踊るほうではなく、聴くほうが専門なんです。実際に歌詞が面白い。十曲すべてが面白い。」

まあ、自分のご先祖様が登場してくるのはちよつとこそばゆい感じがしますが(笑)「確かに郡上八幡観光協会の『郡上おどり大百科』というホームページを見ると、それ

こそ十曲が、郡上の歴史、風土、習慣、生活を唄っている。もちろん男女の情愛も多く唄われている。

毎年、おどりを踊りながらこうした歌詞を聞いていたら、大人も子どももみんな郡上の歴史や習慣を覚えてしまう。青山家を殿様と呼ぶのも自然なことなのだ。

初代藩主時代に藩内各地のおどりがまとめられ、青山山時代に手厚く保護された郡上おどり、その魅力は踊ってみるのが一番よくわかる。名古屋の北の郡上八幡はちよつと遠いというあなた、東京青山梅窓院の境内で同じおどりが踊れます。まずは青山で一曲踊ってみませんか？



郡上八幡の旧庁舎の観光案内所で談笑する さん(中央)と郡上八幡観光協会の会長。郡上八幡の話題に自然と笑顔がこぼれる。



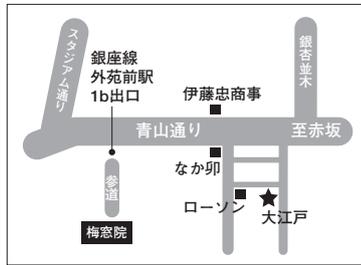
うなぎ割烹 大江戸

店主こだわりの名店の味

日本橋に本店を構えるうなぎ割烹「大江戸」。青山店が出来てから約二十年、開店当初からのファンも多い。

路地を入ると、風情ある佇まいが迎えてくれる。

幻と呼ばれる大井川産のうなぎを蒸し置きせず、注文が入ってから蒸し・焼きにそれぞれ手間隙かけるのは、一番



営業時間/
平日 11:00~14:30・16:30~21:00
土日祝 11:00~21:00
住所/東京都港区南青山2-14-22
TEL/03-3402-0641



うなぎ重は2,940円から。法事の後席でも利用できる、また折詰のお持ち帰りもできる。



緑が涼しげな風情ある店構え。

おいしい状態で食べて欲しいとの店主のこだわりからだ。かなりのポリウムだが、あっさりした味付けでさらっとお腹に収まる。程よいかたろけるうなぎが絶妙。季節を問わず食べたくなる一品だ。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

◎ 島の空映して植田澄みにけり

(評) 島内に作られた田んぼですから、それほど大きくないのでしよう。その植田が空を映している、という明るく気持ちのいい句です。「青田」になるともう水面は見えませぬね。

◎佳作

◎ 豆飯のおかはりしたくなりけり

◎ 咲く沙羅のひと目の命惜しみけり

◎ シェーバーの音のみ高き今朝の汗

◎ 黄泉に咲くみすすの詩や聖五月

◎ みづ欲りし友の今際よ原爆忌

◎ 紫陽花の色あざやかな雨がかり

◎ 何がしか布施としたりし施餓鬼かな

◎選者詠

◎ 川漁の舟くだりゆく遠郭公

(フンポイントアドバイス)

近ごろ、季語の誤用が少なくありません。例えば、「甘酒」「氷雨」はいずれも夏の季語ですが、これらを冬の季語として使う人が増えているのです。「氷雨」は「雷」のこと、「冷たい冬の雨」ではありませんので、ご注意ください。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。11月10日を締切、平成19年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さんの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集部
電話03-5368-1870

万能な秋の味覚

食は命

第二十四回

食養研究家
武鈴子

ぶどうは秋の代表的な果物の一つ。果物の中でも特に含有量の多いブドウ糖と果糖が即効性のエネルギー源となるため、疲労回復に役立つほか、豊富な水分がのどの渇きをいやしてくれます。また、ブドウの皮や種子にはポリフェノールが多く、血栓ができるのを防ぐために、高血圧・脳卒中・心臓病などを予防します。このことはワインを頻繁に飲むフランス人に心臓病が少ないことで証明されています。種から絞ったグレープシードオイルには、血中の悪玉コレステロールを減らし、動脈硬化を防ぐ効果があります。

日本ではぶどうは皮を除いて食べますが、外国では皮ごと食べています。外国のぶどうは皮が薄いことあるのですが、皮ごと食べる習慣は見習ったほうがよさそうですね。

日本ではぶどうは90%が生食されますが、外国では80%がワインの原料として消費されています。また近年注目されているのがイタリアのバルサミコ酢。これはイタリアのモデナ地方で伝統的に製造されてきたワインビネガー。ワインと甘みの強い白ブドウの果汁を煮詰め、長期に渡って何回も樽を移し変えて熟成させて作ります。手間がかかっている分高価ですが、甘味と丸みのある酸味があらゆる料理の極上の隠し味となります。伝統のもつ力でしょうか。

行事予定

秋彼岸会法要

9月23日(土)
寄席 午後1時～ 観音堂
法要 午後2時～ 本堂

落語

三遊亭 歌る多 師匠

1962年荒川区生まれ。1981年三遊亭圓歌師匠に入門。1993年女性初の真打ち昇進(女流粹)。



2000年女流粹撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。

前座

三遊亭 歌すみ さん

東京都出身
2005年三遊亭歌る多師匠に入門。



第39回 念仏と法話の会

10月10日(火)
受付開始 午後12時～
別時念仏会／法話／茶話会
【講師】
宮城教区 浄念寺 高橋清海上人
「法然上人に導かれて I」

文化講演会

11月4日(土)開催予定
開場 午後3時 開演 午後4時～
【講師】キャスター 筑紫哲也氏
入場無料／先着250名
※詳しくは別送チラシにてお知らせ致します。

十夜法要

11月18日(土)
法要／芋煮会／特別LIVE
※歌手の大島花子さんの弾き語りをお楽しみ下さい。
※詳しくは十夜号にてお知らせ致します。

ファンデンフック ピアノサイトル

12月2日(土)開催予定
※詳しくは十夜号にてお知らせ致します。



美

秋のお彼岸が近づきました。

普段お参りできない方も、お彼岸には多くの人がお墓参りに訪れます。

しかし久々にお墓に行ったら、墓石が汚れていたりシミができていたりなんて経験ありませんか？ お寺に墓地管理料を納めているのになぜ？ という方もいらっしゃるかもしれませんが、お墓はご先祖様に対する奉仕の気持ちを忘れずにご自身の手でお掃除することが大切です。お願いしている管理料は通路や水場など、墓地の公共部分を清掃、整備するために使われています。

ご自身で掃除することが理想ですが、なかなか時間も取れず悩んでいる方も多いようです。

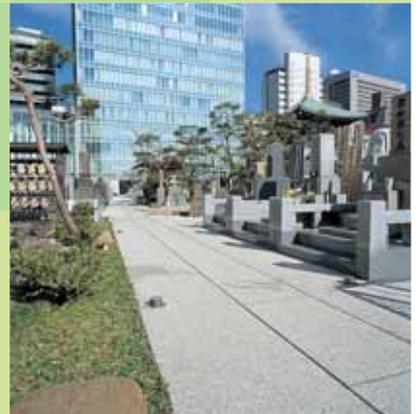
お困りの方は受付にご相談下さい。
また、お墓参りや法事など、梅窓院内での忘れ物や落し物についても受付にご連絡下さい。届けられた場合、受付で半年間お預かりしております。(但し、貴重品の場合はすぐに交番に届けます)
お心当たりの有る方はぜひお問合せ下さい。

お墓はいつも美しく
お参りの前にはお掃除を

苗



参



発行/梅窓院
発行日/平成18年9月1日
発行人/中島 真成
編集/梅窓院 広報部
住所/〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8107
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp
題字/浄土門主総本山知恩院門跡 第八十六世中村康隆祝下

◎郡上おどりを今回初めて踊りましたが、楽しく自然に体が動きました。免許取得を目指したいと思います。(斎)
◎大江戸さんではおいしいうなぎを頂き、もりもり食べてしまいました。皆さんもぜひご賞味ください。(宇)
◎踊りの本場郡上八幡に取材でお邪魔しました。観光協会の皆さまには大変お世話になりました。感謝！(堀)

